

第 14 回 教育研究大会 基調講演のご案内

京都市立堀川高等学校第 14 回教育研究大会（11 月 22 日）の基調講演の内容をお知らせいたします。ご多用のことと拝察いたしますが、多くの方々にご参加いただきたくご案内申し上げます。詳しい大会内容と申込等につきましては、[こちら](#)をご覧ください。

基調講演（9:40～10:20）

「新学習指導要領が求める力は何か」

京都市教育委員会教育企画監 荒瀬 克己 氏

講演概要：

新学習指導要領は、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を図ることによって、「生きる力」を育成するよう求めている。この間、中央教育審議会初等中等教育分科会に高等学校教育部会が設置され（2011 年 11 月）、全ての高校生に共通に身に付けさせるべき資質・能力（「コア」）についての検討が重ねられてきた。本年 1 月にまとめられた＜審議の経過について＞においては、社会で自立し、社会に参画・貢献していくために、「学力の重要な三要素」（基礎的・基本的な知識・技能、それらを活用するための思考力・判断力・表現力等、学習意欲）とともに、「社会・職業への円滑な移行に必要な力」（汎用能力）や「市民性」（市民社会に関する知識・理解、社会の一員として参画し貢献する意識など）が重要であるとしている。

また、中央教育審議会答申＜幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について＞（2008 年 1 月）の中には、「自己との対話を重ねつつ、他者や社会、自然や環境と共に生きる、積極的な『開かれた個』であることが求められる」との指摘がある。

どのような取り組みをすれば、「学力の重要な三要素」を伸ばし、社会で生きていく上で必要な「汎用能力」を付けることができるのか。生徒を「開かれた個」に成長させるためにはどのような教育活動が望まれるのか。

「双方向型の授業」と「探究力の育成」をキーワードとして、新学習指導要領が求める力は何かということについて考えたい。

講演者略歴

京都市教育委員会教育企画監（前本校学校長）

2005 年以降、中央教育審議会初等中等教育分科会、教育課程部会、キャリア教育・職業教育特別部会、高等学校教育部会、高大接続特別部会、教員の資質能力向上に係る改善方策の実施に向けた協力者会議、大学分科会「高等学校と大学との接続に関するワーキンググループ」、教職大学院特別審査会、文部科学省言語力育成協力者会議等の委員、高等学校学習指導要領「総合的な学習の時間編」作成協力者や、全国都市立高等学校長会長、京都市立高等学校長会長、兵庫教育大学教育行政能力育成カリキュラム開発評価委員会委員長、京都大学高等教育研究開発推進センター「学校から仕事・人生へのトランジション調査プロジェクト」連携協力者、東京大学入試委員会「高等学校関係者との懇談会」メンバー、京都大学『思修館』に係る『グローバル技術戦略論』及び『国際資源・エネルギーサイクル論』授業高度化研究会」メンバー等を歴任。

2007 年 10 月、NHK 番組「プロフェッショナル仕事の流儀」で『背伸びが人を育てる』校長・荒瀬克己」として放送された。

著書に『奇跡と呼ばれた学校』（朝日新書 2007 年 1 月）、『子どもが自立する学校』（共著、青灯社 2011 年 1 月）がある。